

20040311 雑誌「法政」ニューヨークだより No.1

ニューヨーク便り①

田中 洋(経営学部教授)

ニューヨークに降り立ったのはまだ肌寒い2003年4月だった。2月に住むところを一度下見に来て決めていたのですぐにニューヨーク郊外の借家に入ることができたものの、当然家のなかには何も無い。持参した空気ベッドを膨らませてとりあえずその上に寝た。幸い電話線だけは不動産屋が手配しておいてくれすぐにパソコンでインターネットにつなげることだけはできた。電話機もなかったので不動産屋さんが使っていない電話機を貸してくれた。

そんな心細い状態から生活を立ち上げてなんとか生活らしきことができる状態になったのは6月ころだろうか。車を買って家具や寝具を揃え、料理らしきことをはじめた。その夏ごろからなんとか生活らしき生活ができるようになった。長年ペーパードライバーだった私が夏にようやく自動車免許を取った。

私の住んでいるのはマンハッタンのグランドセントラル駅から列車で北東に40分行った郊外のハリソンという町である。今度メッツに入団した松井カズオ選手がこの町に家族と引っ越してくるらしく、この町の日本人の間で話題になっているところである。

ハリソンは最初日本人家族が住むには良いところである。静かで犯罪も少なく海に程近い。ただし家賃は安くない。私は一軒家を二家族で割って住むデュプレックスというタイプの家に入居しているが、家賃は月々3000ドル・・・ニューヨークは安全をカネで買うところである。それを致し方ないと承知して法政からいただく賃金の多くを家賃に廻してなんとか貧乏でも豊かな暮らしをしている。

コロンビアといえばウタダヒカルさんが入学したことで知られているようだが(今は休学しているらしい)、アイビーリーグ校のひとつで昨年開学250周年を迎えた。法政が120年の歴史であるからその倍の歴史ということになる。私学であり学費も高いので「秀才のお坊ちゃん・お嬢さま」が行くというイメージの大学である。

コロンビアのアドバンテージ、それはなんといってもマンハッタンにあることだ。大学の案内書には“自慢げ”にColumbia University in the City of New Yorkと記されてある。コロンビアはマンハッタンの西北、ハーレムの隣にある。ハーレムといっても現在のNYは相当安全な場所になったため、コロンビア周辺も昼間はほとんど心配がない。

私の所属するビジネススクールは学部をもたない独立大学院で、学生数は約1000人。90年代後半から毎年入学希望者が増え続けており、最近の受験者と入学者の比率(受け入れ率)は12%くらい。92年ごろまでは受験者の47%が合格していたのに比べると様変わりである。やはりビジネススクールを修了するとそれだけの高収入や地位がある程度保障されているからこそのような人気になっているのだろう。

私はこのマーケティンググループで客員研究員として最初の一年を過ごした。私のボスはモリ

ス・ホルブルック教授。ポストモダン消費者行動研究の主導者であると同時に行動科学的アプローチでも実績を残している多彩な研究者である。コロンビアビジネススクールでの最初の一年は私にとって刺激に満ちたものだった。

20040414 雑誌「法政」ニューヨークだより#2(改訂版)

ニューヨークだより② “ニューヨークへの期待と現実”

田中 洋(経営学部)

2003年度の最初の一年、私はコロンビア大学大学院ビジネススクールのマーケティンググループに所属して客員研究員として過ごした。私にとってアメリカ暮らしは20年前イリノイ州の田舎で過ごした留学生活以来だが、ニューヨーク暮らしにはとまどうことが多い。

ニューヨークというと危険な場所という連想を持つ人も少なくない。コロンビア大学が立地するモーニングハイツはハーレム地区のすぐ横にあるので、なおさら危険ではないかと心配してくださる方もいた。しかし現在のニューヨークは90年代初頭よりもはるかに安全な場所となっている。

1993年当時のニューヨーク市の犯罪(殺人、レイプ、盗難、暴行など)は約43万件であったが、2002年には14万6千件に激減している。およそ66%の減少ということになる。昔は落書きだけで汚いことで有名だった地下鉄もキレイになり、使いやすくなった(前市長のジュリアーニ氏の貢献と言われている)。もともと1億2700万人の日本全体と人口800万人のニューヨーク市の殺人件数がおおよそ2:1の割合らしいので、日本と比べれば依然危険な場所であることには変わりないが。

ニューヨークに住んでいるというと日本の友人から「ニューヨークの最新の流行を教えてください」と聞かれることも少なくない。しかし私に言わせれば東京のほうがよほどトレンドに敏感である。六本木ヒルズのような場所は欧米のどこにもない。

私のようにボケーとニューヨークの街を歩いているのはニューヨーカーがフツウの服しか着ていないことを確認するだけで最新トレンドなるものにぶつかることは決してできない。ニューヨークの流行を知りたければ日本の雑誌を読むのがもっとも手っ取り早い。最近ようやくニューヨーカーの間でプラダやグッチ、ルイヴィトンなどの高級ブランドが浸透してきた感があるが、ある人にいわせればそれは人気テレビドラマ「Sex and the City」(HBOチャンネル)の影響であるということだ。つまり流行にうとい大多数のニューヨーカーたちはテレビでそれをせつせと学んでいるのである。よく日本人はブランド(あるいは流行)に弱く、アメリカ人は自分の個性にあったものを選ぶ、という言い方を耳にするが私には疑わしい。アメリカ人は単に流行を知る機会に恵まれてないだけであるからだ。

よく日本は歴史のある古い国でアメリカは新しい国であるという言い方がなされる。しかし実際は逆である。前回も書いたように、大学の古さでも法政は120年だが、コロンビアは250年である。日本はどこを見ても「新品」の国であり、アメリカは逆に良い意味でも悪い意味でも古いものがい

つまでも使われている。昨年夏のニューヨーク大停電は 100 年前の電力システムを使っていたためといわれている。先ごろ日本では自動回転ドアによる不幸な事故があったが、アメリカには古くてぼろいエレベーターがあちこちにあり危険極まりない。昨年日本人の若い医師がエレベーターに首をはさまれて命を落とすという悲惨な事故があった。だからアメリカに来て閉まりそうになるエレベーターに決して手を入れて止めてはならない。

家を借りるためにアパートを見せてもらうとこれは「プリウオー」の住宅だという。プリウオーとは戦前に立てられた住宅のことで、それも大恐慌の 1929 年というような年代のものがざらにある。ジョンレノンが住んでいたダコタアパートは 120 年前(1884年)の建物だが、古い建物ほど高級で価値がある。新築の豪邸は「マックマンション」(ファストフードみたいな建物)と呼ばれてバカにされている。

ニューヨークは 20 世紀初頭からの摩天楼が並び立つ「古都」である(実際に一時首都であったことが歴史的にある)。もちろんそこには世界のどこにもないような新しい情報があるし、さまざまな国から雑多な人々が集まる場所であることも間違いない。ようするにニューヨークはいつでも我々の期待を裏切るようにできている街なのである。